

| | |
|--------------------------|---|
| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
| やさしく、かしこく、たくましい 三根西っ子の育成 | ①やさしい子を育む(思いやりのある子供の育成) ②かしこい子を育む(自ら考え、進んで学習に取り組む子供の育成) ③たくましい子を育む(健康に気をつけ、丈夫な体をつくらうとする子供の育成) |

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

| ①やさしい子を育む(思いやりのある子供の育成) | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|---------------------------|--|--|-----|--|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ●心の教育 | 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実 | ・年間計画に従い、35時間の授業を実施する。 ・「考える道徳」「議論する道徳」に取り組む。 ・授業参観で、道徳の授業を1回以上実施する。 | ・デジタル教科書、道徳ノートを有効に使い、主体的・対話的で深い学びを実践する。 ・ふれあい道徳の実施に伴い、計画的に参観授業を行うとともに、通信等で共通理解を図る。 | A | ・1年生34時間、2～6年生35時間の授業を実施することができた。しかし、計画にやはずれが出て、何とか3学期までに達成することができた。 ・授業参観で道徳の授業を公開し、学級だよりで共通理解を図った。 ・「考える道徳」「議論する道徳」を意識した指導を行うことができた。 | ・年間計画に従って、授業を行っていく。 ・道徳ノートを有効に使い、引き続き「考える道徳」「議論する道徳」を実施していく。 ・「評価」について引き続き研修を積む。 |
| 教育活動 | ●いじめの問題への対応 | ふわふわ言葉・ふわふわアクションあふれる学校づくり | ・学期ごとに、児童平均一人1回以上、ふわふわ言葉・ふわふわアクションをした人を、カードで紹介することができる。 | ・年4回の「こころの集会」で、ふわふわ言葉・ふわふわアクションに関する取り組みをし、意識の高揚を図る。 ・運営・集会委員の児童が主体となって、ふわふわ言葉・ふわふわアクションを推進するプロジェクトを計画し実行する。 | B | ・こころの集会やふわふわアクションを推進するプロジェクトを行い具体的な目標である児童平均一人1回以上のカード記入とはならなかった。しかし、ふわふわ言葉・ふわふわアクションは、児童を観察して、日頃からよく見受けられる。 | ・ふわふわ言葉・ふわふわアクションをした人を紹介することを増やすには、より児童が主体となった活動ができるような支援が必要である。委員会活動の中で、取り組む企画を立案させる。 |
| | | 自己指導力を高める生徒指導の充実 | ・進んであいさつをする児童を育成する。 ・ごみの落ちていない学校にする。 | ・あいさつを年間通した生活のめあてに設定し、意識付けを図る。 ・「ごみゼロ活動」の実施による意識付けを図る。 | B | ・校内の挨拶がよくできている。 ・登下校時や地域でのあいさつ向上が課題。 ・ゴミの少ない学校になっている。 | ・地区児童会、登校班長会、一斉下校等で安全面の指導とともに、地域でのあいさつについて指導する。 |

②かしこい子を育む(自ら考え、進んで学習に取り組む子供の育成)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|---------|--------------------|--|---|-----|---|---|
| 教育活動 | ●学力の向上 | 校内研究の推進 | ・全員1回以上の研究授業を行う。 ・講師招聘により、指導力の向上を図る。 ・校内研修の充実のために大学の教授等を数回招聘し、理論研究の充実を図る。 | ・6月に1回、11月に公開授業による授業研究会を行う。部会ごとの授業研究会も実施する。 ・指導講師から、低・中・高学年部会ごとに、実態に応じた教材研究や単元計画づくり・指導案検討などの具体的な指導を受ける。 ・指導講師と連携しながら、長期休業中に理論研究を行う。 | A | ・全員の研究授業とともに、三養基地区の公開授業に向けて、職員間で協力し、研究を進めることができた。 ・佐賀大学達富教授をはじめ、複数の講師を招聘し、研究の質を高めることができた。 | ・引き続き、達富教授の助言を仰ぎ、全職員の指導力向上を図る。 ・「学習課題」に加えて、「問いを立てる」活動を取り入れ、研究を深めていく。 |
| | | 読書活動の推進 | ・学年の目標冊数(低学年・・・120冊、中学年・・・100冊、高学年・・・80冊)を80%の児童が達成する。 ・学年の「おすすめの本」30冊を80%の児童が読む。 | ・1～4年生は、図書館利用の時間を確実に、5～6年生はできるだけ実施する。 ・「学年の目標冊数」「おすすめの本30冊」の意識づけを年間通して図る。 ・図書館から出される各児童の貸出冊数の資料を通して実態を把握し、次学期、個別に具体的に読書指導を行う。 | D | 2月下旬の統計結果で ・学年の目標冊数(低学年・・・120冊、中学年・・・100冊、高学年・・・80冊)を達成した児童は、全校の49% ・学年の「おすすめの本」30冊を読んだ児童は、全校の52% 具体的な目標に全く届かなかった。 | ・今年度、目標達成率が学年によって大きく違った。6年間を通して、更には生涯読書に親しむ人間を育成するためには、全校で一貫した読書指導計画を立て、全校職員が年間通して児童の読書活動に関心をもって取り組む。 ・読書を学力向上の下支えと位置付け、推進を強化していく。 |
| 学校運営 | ○特別支援教育 | 特別支援教育の充実 | ・1月実施のアンケートで「学校生活が楽しい」と答える児童を前年度(よくあてはまる65%)比増を目指す。 | ・教育相談連絡会を年4回、週1回実施の連絡会にて、教職員間の情報共有を行い、指導・支援の連携を図る。 ・報告・連絡・相談を迅速に行い、保護者とともに、専門機関やSSW・SCとの連携を密に行う。 | B | ・教育相談連絡会や週1回の連絡会で、教職員間の情報共有を行い、指導・支援の連携を図ることができた。 ・報告・連絡・相談を迅速に行い、保護者とともに、専門機関やSSW・SCと連携を密に行うことができた。 | ・気になる児童等の教職員間の情報共有はできているが、その児童の顔を覚えて、教職員全員がその時々把握する手立てをとり情報共有を深める。 |

③たくましい子を育む(健康に気をつけ、丈夫な体をつくらうとする子供の育成)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|----------|---------------------|---|--|-----|---|--|
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 | ・90%の児童が、朝食を摂って登校する。 ・食育への関心を高める実践を行う。 | ・食育の授業を年に1回は各学級で行う。 ・朝の健康観察で朝食摂食の実態把握を毎日行う。 ・授業や学級活動において、「食育アンケート」「早寝・早起き・朝ごはんアンケート」の結果を生かした実践を行う。 | A | ・食生活アンケートで、朝食喫食率は97%だった。 ・全学年で、食育授業(ロング・ショート)を行った。 ・各学年で、教科や行事を関連させた児童の食への興味を高める取り組みを行った。 | ・食に関する指導の年間計画にそって、児童の意識を高めていくとともに、保護者へ学校の取り組みの紹介を行う。 ・朝の健康観察で、朝食を食わずに登校する児童が把握できるので、観察を継続しながら、必要であれば速やかに対処法を検討する。 |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策 |
|------|--------------------|--------------------|---|--|-----|--|--|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 業務の明確化 教職員の連携促進 | ・担当する分掌事務を、その目的やねらいを明確にして、スリム化を図る。 ・業務改善につながるアイデアを各自1つ以上出し合い、チーム力の向上を目指す。 | ・校務シェアボードの閲覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡とねらいに応じた振り返りをタイムリーに行う。 ・限られた時間を有効に使う意識で、校内の「ひと・もの・こと」の改善点を出し合う場を学期に1回設定し、実行に移す。 ・円滑な教育推進のために、毎週ははじめに、校長、教頭、教務、事務職員で打合せを行う。 | B | ・校務シェアボードの閲覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡は行うことができた。行事の振り返りについても、各担当で反省と次年度に向けた改善点を示し次に繋がるようにしてきた。 ・限られた時間を有効に使う意識で、体育大会の時短やみまもりノートの稼働などを行い、業務の改善に繋がった。 ・円滑な教育推進のために、毎週はじめに4者の打合せを行い、業務の着実な遂行を進めた。 | ・職員が見通しをもって教育活動を行えるように、校務シェアボードの閲覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡を確実に行う。 ・校内の「ひと・もの・こと」をどう活用し改善して進めていくかについて、職員で検討し、行事の効率的な運営を図る。 |
| | ○開かれた学校づくり | 地域連携、幼保小中連携の推進 | ・授業参観や学校行事における児童の家族及び地域住民の来校者を前年度比10%増を目指す。 ・三根校区の幼保、三根東小、三根中との交流行事に関わる児童及び教職員数の前年度比増を目指す。 | ・1つの行事の案内を複数の場面でを行い、期日や内容の事前周知を図る。 ・学校ホームページの更新を週4回以上行い、教育活動の様子を随時伝える。 ・三根校区幼保小中の会議や研修、交流会の事前周知・情報共有を図る。 | A | ・体験活動や地域の方との交流活動については、報道機関への投げ込み、学校便りでの地域への広報活動などの手立てを取り周知を図った。 ・授業参観においては、参観者数は前年度並みの参加者数であったが、地域の方々の交流で行った「餅つき」「見守り感謝の会」への地域の方の参加者が増えた。 ・学校のホームページの更新も毎日行い閲覧者数も増えている。 | ・地域サポーターの方をお招きしての感謝の会や6年生のたご汁感謝の会は、区長さんや民生委員さんの行事と重ならないように、地域の方々との連絡を次年度5月に開き日程の調整を行う。 ・まちコミメールや学校便りを活用し、保護者、地域の方々の授業参観等への参加をより積極的に呼びかける。 |

4 本年度のまとめ・次年度の取組

◎「①やさしい子を育む」では、道徳、学活、全ての教育活動を通して、思いやりの心で人と接することを伝えてきた。特に、「ふわふわ言葉、ふわふわアクション」を意識した言動で思いやりの心を育む活動を行ってきた。また、日ごろお世話になっている方々への感謝の気持ちを表すために、感謝の会を11月6日(水)朝の時間に、つきだご汁会を2月22日(金)に開いた。日頃の児童の行動の把握や再発防止へのSCやSSWの活用や医療機関等との連携・協力体制を今後も継続する必要がある。

◎「②かしこい子を育む」では、佐賀大学達富洋二教授に加えて、複数の講師を招聘し指導をいただいた。「主体的な学び」を一層充実できるよう研究を深めていく。課題は、読書の質や量を高めることである。次年度、一層本に親しむような活動に取り組ませたい。

◎「③たくましい子を育む」では、食生活アンケートで、朝食喫食率は97%だった。全学年で食育の授業を行い、教科や行事を関連させた児童の食への興味を高める取り組みを行ったことが成果に繋がった。今後も家庭に学校での取組やアンケートの結果等をお知らせし協力して取り組みを進めていきたい。また、本校の児童は休み時間等、外で遊ぶ習慣が身に付いている。体力向上のために、これからも外遊びを推奨したい。

◎「開かれた学校づくり」については、地域、幼保小、小中の連携がより深まるよう取り組んできた。地域には、学校での様子を学校便りやまちコミメール等でお知らせすることにより、学校に足を運んでもらえることが多くなった。小中連携では、修学旅行等で無理なく一緒に活動できることを考えて実施した。中学校へのスムーズな移行も視野に入れて、中学生による挨拶運動や体育大会ボランティアの派遣などが充実してきており、継続する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目